

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

長崎県長崎市

学校名

長崎市立三和中学校

学校のURL

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/sanwa-j/>

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1年生3学級、2年生2学級、3年生3学級

【特別支援学級】1学級

【合計】9学級

児童生徒数

【全生徒数】244人（平成23年12月1日現在）

（内訳：1年生75人、2年生80人、3年生89人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

- ・基礎学力を保障し、「学力の向上」を図る。（確かな学力の向上）
- ・「確かな心」「豊かな心」を育成する。（心の教育の充実）
- ・「信頼される学校」づくりを行う。（信頼される学校づくりの推進）
- ・図書館整備と利用促進を図る。
- ・人権教育を推進する。

人権教育にかかる取組の全体概要

研究テーマ：『人間尊重の精神やふれあいのある人間関係を大切にする生徒の育成』  
～ひとりひとりがお互いを認め合い、高め合うための集団づくりの取組を通して～  
本校の生徒は明るく、学校行事や部活動など活発に活動している生徒が多い。しかしながら最近の中学生の傾向として、協力し合って何かを達成したという経験が少ない。また、周りの友達と関わろうとしない生徒も多く、学習集団形成が難しくなっている。そこで、学校現場で定期的なスキルトレーニングなどをおこなうことにより、基本的な社会的スキルを身に付け、場に応じて適切な対応ができるようになることが良好な対人関係を結ぶ上で効果的であると考えた。例えばコミュニケーション能力は、お互いに理解し合うために必要な、相手の話や考えをしっかりと聞き、自分の意見や考えを相手に伝える相互交流的な能力である。そのような能力が向上すれば、ひとりひとりがお互いを認め合い、高め合うための集団づくりが可能となる。つまり、お互いを尊重し合いながら受容感を味わいつつ意欲的に学びに向かう学習集団づくりが必要であるといえる。また、人権の視点で学校生活を捉え直し、常に人権を意識して子どもたちと向き合う教師集団づくりもめざしている。

### 3. 特色ある実践事例の内容

本校では、子どもたちの人権感覚を豊かに育むために、次の3つの項目を特に身に付けさせたい基本的な力と考え設定した。

#### 三和中の人権視点項目

##### 自己肯定

自分自身をかけがえのない価値ある存在として認めること。自尊感情。

##### コミュニケーション能力

自分を伝え、相手を受けとめる力。単に書く・話すことで自分を一方的に表現するだけでなく、相手のものの見方や考え方を注意深く聴き、理解し、お互いを伝えあう能力のこと。

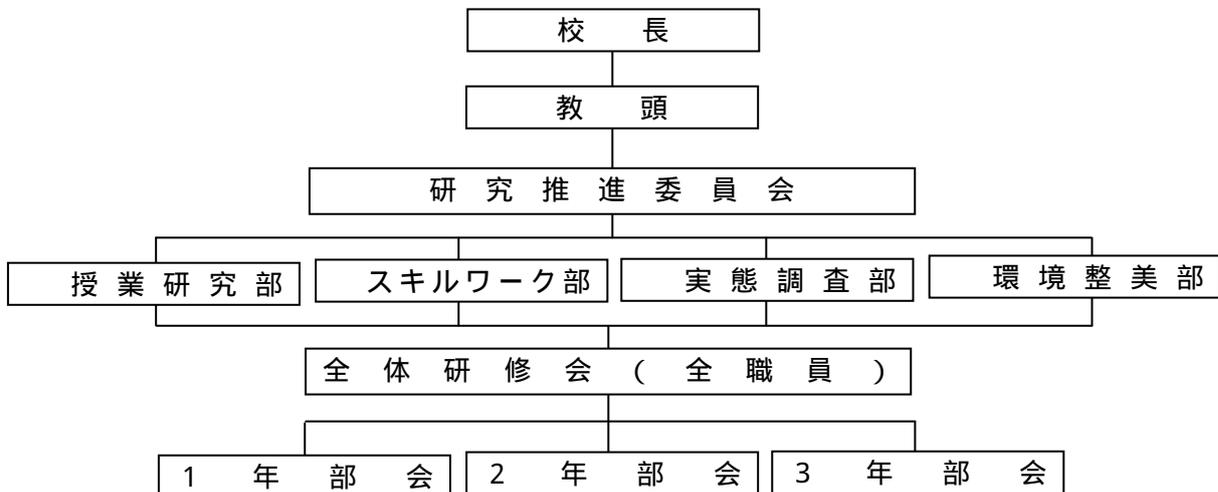
##### 協力

協力できる力と仲間づくり。共通の目標に向かって協力する中で育つ仲間の立場に気づき、思いやりをもって助け合う力のこと。

これらの基本的な力を身に付けさせるために

- ・ 各学年の実態や発達段階に応じた活動を計画・実践していく。
- ・ 各教科における人権に関わる授業内容を把握する。
- ・ 人権に関する意識調査や実態調査を定期的に行う。
- ・ 人権に関わる授業を全職員が研究授業をして発表する。
- ・ 本校の実態・教育課題に応じた校内研修を定期的実施する。

#### 取組の実施体制



#### 各専門部の取組

##### 授業研究部の取組

- ・ 道徳、各教科に関する学習指導案形式を作成する。
- ・ 各教科における人権にかかわる授業内容を把握する。
- ・ 授業形態、学習形態の研究を行う。

##### スキルワーク部の取組

- ・ 特別活動や短学活でのワークショップを研究する。
- ・ 特別活動や短学活でのスキルワークトレーニングを研究する。

- ・ 集団づくりのための「総合的な学習の時間」の計画を立案する。
- 実態調査部の取組
- ・ 人権に関する調査と分析をする。
  - ・ 学級集団の傾向を把握するためのアンケートの実態と分析をする。
  - ・ 写真と資料の整理をする。
- 環境整美部の取組
- ・ 教室の環境づくり
  - ・ 校舎内外の環境づくり

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

##### 1 各専門部の取組例

###### 授業研究部の取組

###### 授業指導案形式の作成

全職員が人権の視点を持って授業をできるように、指導案形式を作成した。普段の授業をふりかえり、どの場面が3つの「人権視点項目」に該当しているかを再確認することができた。

###### 授業の受け方について

人権の視点に立って、生徒会役員を話し合いに参加させながら、授業改善のための言葉づくりを行い、以下を『三和中授業三原則』と名付け教室等に掲示している。

- ・ 先生の 目を見て聞こう 授業中
- ・ 時計見て 準備をしよう 2分前
- ・ 伝えよう 自信をもって 受けとめよう 相手の気持ち

クラスの前方に掲示することで、意識して授業に臨む姿が見られる。

###### スキルワーク部の取組

道徳や学級活動の趣旨を生かしながら実践可能なトレーニングがないか、学年ごとに選定して取り組んでいる。下の内容は1、3年生が行った例である。

- ア 合唱コンクールに向けて目標をつくろう～パート仲間で協力しよう～【協調性、役割遂行力】
- イ みんなの「ほめ言葉」で探る「私はだれか」～自分を見つめてみよう～【自己理解、自己洞察、他者理解】 2時間
- ウ 私の大事なもの～人生規範の羅針盤～【会話力、発表力、協調性】
- エ 善悪の判断を身につけよう～非行を防ぐために～【正義感、規範意識、善悪の価値観】
- オ 課題をよりよく解決しよう～班員全員の合意のもとで～【自己主張、協調性、判断力】
- カ 発表の仕方を身につけよう～相手によく伝わる発表の仕方を身につける～【発表力】
- キ 自分を表現しよう～好感を与える自己アピールのスキルを身につける～【自己表現、アピール】
- ク 感謝の気持ちを表そう～支えてくれた人に感謝の気持ちを表す～【感謝する気持ち】

###### アについて

合唱コンクールが近づくにつれクラスの団結力が出てきた。達成感を味わったり、他学級や先輩の合唱を認める感想が多かった。その後に実施した体験的な学習の際にも、班ごとの協力や連携が顕著に見られた。

###### カについて

アナウンサーの話し方を参考に、上手に伝える方法を学んだが、短学活のスピ

一稿原稿を見ずに聞き手の方を見て発表しようという意識するようになってきた。

全学年とも合唱コンクールの感想の中で、他学級や他学年の良いところを目に向けた意見が多く寄せられており、年齢や性別にかかわらず他者を受け入れたり、認めたりすることができるようになってきている。

#### 実態調査部の取組

##### 人権アンケートについて

三和中の3つの視点項目について、生徒がどのように考え、どのように行動しているかセルフエスティームについて5項目、コミュニケーションについて10項目、協力について5項目のアンケートを実施し、各項目とも15点満点で集計した。結果は、次の通りである。

	人権に関する認識			人権に関する行動意図		
	セルフエスティーム	コミュニケーション	協力	セルフエスティーム	コミュニケーション	協力
第1回	9.5	10.3	10.9	8.6	8.7	10.7
第2回	10.3	11.3	12.2	9.1	9.9	10.3
差	0.8	1.0	1.3	0.5	1.2	0.4

行動における自己肯定(セルフエスティーム) コミュニケーション能力がやや低い現状が見られていたが、いろいろな取組の中で、行動の協力以外は微増してきている。

#### 環境整美部

人権に関する掲示物を作成し、計画に基づいて掲示を行っている。一例として「心にジーンときた言葉」をテーマに各学年の人権・平和委員に言葉を選ばせ、掲示物を作成させた。



生徒が中心となって人権に係る掲示物を生徒が積極的に作成することで、多くの生徒に人権に関しての意識を高めるよい機会となっている。

## 2 総合的な学習の時間の取組

総合的な学習の時間は、学校教育目標である「元気に学びあい、自分づくり、仲間づくり、夢づくり」の実践の場とし、次の3点を意識させながらコミュニケーション能力の育成を図っている。

- ・ 自分の考えや意見を集団の中で出し合える。
- ・ 自分以外の考え方や感じ方も受け入れる。
- ・ 他の存在も受け入れながら、自分自身の存在の大切さに気づく。

平和を一人一人の生き方の問題として考え、人それぞれ、さまざまな考え方があるということを知るために、各学級での文章づくりから始め、最後に学年全体としての構成詩を作成し、学年発表会を行った。

#### 文章づくり

- ・ 「平和とは」で始まる文章を10個でつくってみる。〔個人〕
- ・ 班で話し合う。〔班活動〕
- ・ 各班で、ベスト5を選び、全体に紹介する。〔学級活動〕
  
- ・ 「平和でないとは」で始まる文章を10個でつくってみる。〔個人〕
- ・ 班で話し合う。〔班活動〕
- ・ 各班で、ベスト5を選び、全体に紹介する。〔学級活動〕
  
- ・ 「平和のために私ができることは」で始まる文章を5個でつくってみる。〔個人〕
- ・ 班で話し合う。〔班活動〕
- ・ 各班で、ベスト3を選び、全体に紹介する。〔学級活動〕

話し合いの過程を大切にし、自分の意見を積極的に出したり、自分以外の人の考えを受け入れるよい機会となった。また、できあがった構成詩もすばらしいものであった。

### 5. 実践事例についての評価

実践例を見てもわかるとおり、いろいろな学校で行われている取組と大きく変わることはない。ただ、指導を行う教師がいろいろな場面において、人権の視点に立って指導を行っているかが大切なことである。日頃の生徒の言動やアンケートの結果から、生徒たちは、ものの見方や考え方のちがいを受け入れられる受容的な態度、安心して自分の考えを表現できる温かな雰囲気ができつつある。また、お互いの良さや努力を認め合えることができるようになってきている。

課題としては、アンケートの結果から、人権の認識面の向上に対して、人権の行動面の向上がまだまだの点が見える。今後、スキルワークをさらに充実して、行動面の向上も図っていきたいと考えている。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

長崎市立三和中学校

道徳の時間や学級活動の趣旨を生かし、「ほめ言葉」「私の大事なもの」「善悪の判断」「班全員の合意」「発表の仕方」などを通して、生徒の会話・コミュニケーション能力の醸成、協調性や合意形成能力の向上に積極的に取り組んでいる。「心にジーンときた言葉」を人権・平和委員が選定・掲示する取組や、総合的な学習の時間を「自分づくり、仲間づくり、夢づくり」の場として「平和」に関する班活動や学級活動の「話し合い」を大切にしている取組など、人権学習の特色ある効果的な題材の選定・開発が数多くみられる。「人権に関する認識」「人権に関する行動意図」について、「セルフエスティーム」「コミュニケーション」「協力」の視点からアンケート調査を行うなど、人権学習の評価・検証面でも積極的な取組のみえる事例である。